

令和元年6月17日現在

機関番号：30102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02418

研究課題名（和文）20世紀初頭のロシア文化における音楽批評

研究課題名（英文）Music criticism in Russian culture in the early 20th century

研究代表者

高橋 健一郎（TAKAHASHI, KENICHIRO）

札幌大学・地域共創学群・教授

研究者番号：80364206

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：ニコライ・メトネル（1880-1951）に関して、同時代の思想家や芸術家らがその音楽をどのように意味づけていたかを整理した。また、1910年代のロシア・アヴァンギャルドに関わった芸術家たちの音楽論を分析し、その根底に宇宙論的世界観と四次元思想があることを明らかにした。さらに、その思想が当時の言語理論や美術理論などとも共鳴関係にあることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで、ロシア・アヴァンギャルドの音楽は他の芸術分野や思想とのつながりをほとんどないとされてきたが、本研究により、実際には密接な関係があることが示された。また、作品分析に関しても、従来の音楽的手法の新機軸の分析と異なり、作品と思想の関係を考慮に入れた分析をすることにより、音楽作品の新たな側面を浮かび上がらせる可能性を示すことができた。

研究成果の概要（英文）：We analysed how Nicholas Medtner's (1880 -1951) music was comprehended by his contemporary thinkers and artists. We also analyzed the musical theories of artists involved in the Russian Avant-Garde in the 1910s, and revealed that there were cosmic worldviews and four-dimensional thoughts at the root. In addition, we revealed that the thoughts had a resonance with linguistic theories and art theories at that time.

研究分野：ロシア音楽、ロシア語学、ロシア文化

キーワード：ロシア音楽 アヴァンギャルド 芸術論 音楽批評

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

ロシア音楽において 20 世紀初頭という時期は新旧の世代、またさまざまな潮流が共存し、ひしめきあっていた時代であった。この時期の音楽に関しては、それぞれの音楽家について音楽学的作品分析、伝記的評論など、様々な角度からの研究がなされてきている。その中で、従来の研究で手薄だと思われるのは、文学や美術なども含めた広い文化的コンテクストの中でその時代の音楽がどのように受容され、どのように意味づけられていたか、という問題であった。

2. 研究の目的

本研究は、20 世紀初頭のロシア文化における音楽批評を対象とする。音楽家、音楽学者、象徴主義の文学者、他のジャンルの芸術家などが残した音楽批評の考察を通して、当時のロシア音楽の実像を探るのみならず、ロシア象徴主義、ロシア・アヴァンギャルドの芸術の理論家たちの音楽観、芸術観を検討し、音楽と他の芸術領域との間の影響関係を明らかにし、20 世紀初頭のロシア文化を新たな視点から再考することを目的とする。

3. 研究の方法

主に 1900 年代から 1920 年代ごろまでのロシアで様々な媒体(雑誌を中心とする)に発表された音楽批評のデータを収集し、整理する。その中から、ロシア象徴主義とロシア・アヴァンギャルドの芸術潮流に関わった音楽家、芸術家、批評家らの音楽批評を整理し、その音楽観、芸術観を明らかにしていく。また、文学者など音楽以外の芸術領域の制作者については、彼らの作品と音楽の関係も明らかにしていく。

4. 研究成果

1) メトネルをめぐる音楽論

ニコライ・メトネル(1880-1951)に関して、同時代の思想家や文学者、音楽家などによる音楽論を分析し、その音楽がどのように意味づけられていたかを分析した。生涯にわたり「ドイツ性」と「ロシア性」をめぐる意味づけを与えられ、それがその時代のロシアや外国の状況に応じて、様々な意味を帯びることを示した。

2) 1910 年代のロシア・アヴァンギャルドに関わった芸術家たち(クリピン、マチューシン、ルリエーら)の音楽論を詳細に分析し、その根底に宇宙論的世界観と四次元思想があることを明らかにした。また、その思想は、当時のロシアの思想界の反実証主義的な一連の思潮と関連があり、そしてそれは当時の言語理論や美術理論などとも共鳴関係にあることを明らかにした。また、その思想が反映された一連の音楽作品を分析し、音楽作品の新たな側面を浮かび上がらせた。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 8 件)

高橋健一郎「亡命と音楽：ニコライ・メトネルの場合」/科学研究費助成事業報告集『ルースキイ・ミール——文化共生のダイナミクス——』(諫早勇一編) 査読無、2019 年、27-53 頁

高橋健一郎「未来派オペラ《太陽の征服》の音楽について：マチューシンの有機的音楽観と音楽的次元」/『札幌大学総合研究』第 10 号、査読無、2018 年、135-162 頁

Такахаси К. Восточные элементы в музыкальной теории русского авангарда: о «свободной музыке» Н. Кульбина / Journal of Musical Science, 査読有、2017 No.3(17) C. 14-21.

高橋健一郎「ニコライ・クリピンの「自由音楽論」解読の試み——芸術のコンテクストにおけるロシア・アヴァンギャルド音楽の基本理念」/『スラヴ研究』No. 64、査読有、2017 年、163-181 頁

Такахаси К. «О "японизме" и "перспективе" в русской модернистской музыке (на примере поэтики романсов Стравинского и Лурье на японские стихотворения) // 鴻野わか菜編『生存と共生(2)——人文学の現在』(千葉大学大学院人文社会科学科学研究プロジェクト報告書第 314 集) 査読無、2017 年、21 - 55 頁

高橋健一郎「ロシア・モダニズム音楽における ジャポニスム と 遠近法 について～ストラヴィンスキーとルリエーの和歌歌曲を例に～」/札幌大学外国語学部紀要『文化と言語』第 84 号、査読無、2016 年、203-232 頁

Такахаси К. Японизм в русской модернистской музыке: поэтика романсов Стравинского и Лурье на японские стихотворения // Journal of Musical Science, 査読有、2015 No.4(10)

高橋健一郎「ストラヴィンスキーのジャポニスムの詩学」/札幌大学外国語学部紀要『文化と言語』第 83 号、査読無、2015 年 111 - 132 頁

[学会発表](計 12 件)

高橋健一郎「ロシア音楽史におけるアレンスキー世代」/演奏表現学会 2018 年度 6 月例会(招待講演)(2018 年 6 月 2 日、武蔵小杉サロンホール)

高橋健一郎「心から心へ～ロシアは子どものための作品の宝庫～」/日本ピアノ教育連盟第34回全国研究大会(招待講演)(2018年3月29日、昭和音楽大学)

高橋健一郎「ロシア音楽史におけるアレンスキーの世代～ロシア語の音楽用語を学ぶ～」/ (招待講演)ロシア語通訳協会北海道支部第28回学習会(2018年3月10日、札幌コンベンションセンター)

高橋健一郎«Диалог русской и японской классики»(「日露の古典文化の相互対話」)/在ユジノサハリンスク日本総領事館・サハリン国立総合大学教育プログラム「日本講師招へい」(全6回)(招待講演)(2018年2月15-16日、ロシア・サハリン州総合学術図書館)

高橋健一郎«Музыкальные взаимосвязи между Японией и Россией»/Международный симпозиум по японоведению и методике преподавания японского языка(招待講演)(2017年3月18日、ノヴォシビルスク工科大学)

高橋健一郎«Восточные элементы в музыкальной теории русского авангарда»/Научная конференция «ПРОБЛЕМЫ ЭТНОМУЗЫКОЗНАНИЯ: источники, нотная транскрипция»(2017年3月16日、ノヴォシビルスク音楽院)

高橋健一郎「メトネルの生涯と音楽」/科研費助成事業基盤研究C「ルースキイ・ミール文化共生のダイナミクス」(研究代表者 諫早勇一)2016年度第2回研究会「戦間期ヨーロッパのロシア世界(ルースキイ・ミール)」(招待講演)(2017年2月16日、駒澤大学)

高橋健一郎「ロシア音楽をより良く知るために」/昭和音楽大学附属音楽教育研究所公開研究会(招待講演)(2017年2月8日、昭和音楽大学)

高橋健一郎「ロシアのモダニズム音楽とジャポニズム(ストラヴィンスキーとルリエーの和歌歌曲の詩学)」/「ロシア芸術とジャポニズム」(2015年12月5日、東京大学)

高橋健一郎"Японизм в русской модернистской музыке: поэтика романсов Стравинского и Лурье на японские стихотворения", 国際学会「ロシアと日本:文化的協働の歴史、理論、実践、展望」, 2015年10月10日、グリーンカ記念ノヴォシビルスク音楽院

高橋健一郎「Russian Art in the Period of the Revolution: The Encounter and Intermixture of Theatre, Art and Literature」, IX World Congress of ICCEES, 2015年8月4日、幕張

高橋健一郎「ロシア・アヴァンギャルド音楽におけるジャポニズム:ストラヴィンスキーとルリエーの和歌歌曲の詩学」日本ロシア文学会北海道支部大会、2015年7月11日 北海道大学

〔図書〕(計1件)

高橋健一郎『ロシア・アヴァンギャルドの宇宙論的音楽論 言語・美術・音楽をつらぬく四次元思想』水声社、2019年、220頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。